

作業基準書

AI 導入・アプリ内製化支援

項目	内容	項目	内容
制定日	2026 年 9 月 3 日	適用開始	制定日より
作成	一般社団法人サーコミュニケーション	承認	()
対象サービス	AI 導入・アプリ内製化支援	改訂	第 2 版 (2026 年 9 月 3 日)

1. 目的

本基準書は、「AI 導入・アプリ内製化支援」において、実施者が誰であっても同じ品質で作業を完了できるようにするため、作業の順序・急所・判定基準を定めるものである。

本サービスは「代わりに作って納品する」ものではない。お客様が自分の手で作れる状態になることが目的であり、実施者が代行してしまうことは本サービスの失敗である。

2. 適用範囲

法人のお客様に対し、GitHub および Claude を導入し、Android アプリを自社で開発・公開できる状態にするまでの一連の作業に適用する。

3. 完成の定義（この作業が「終わった」と言える状態）

次の 3 つがすべて満たされたときに完了とする。1 つでも欠ける場合は完了としない。

- お客様の担当者が、**自分の手だけで**「①変更する ②ビルドする ③公開する」の 3 つを実施できる
- Google Play にアプリが 1 本、公開されている（または審査に提出済みである）
- 引き渡し資料一式がお客様側に保管され、アップロード鍵のバックアップが 2 か所以上に存在する

4. 前提条件（着手前に満たしていること）

	確認事項	満たされていない場合
1	お客様が法人であること	本サービスは提供できない。お断りする。
2	すべての工程を通して参加する担当者が1名以上決まっていること	担当者が確定するまで着手しない。日程を再調整する。日によって交代する形は不可とする。
3	作業に使うパソコンに管理者権限があること	情報システム担当者の同席を依頼する。
4	社内ネットワークからインターネットに接続できること（プロキシの有無を確認）	プロキシ設定値を事前に入手する。当日判明すると作業が止まる。
5	D-U-N-S® Number を取得済み、または取得手続きに着手済みであること	工程2を先行させ、環境構築より前に着手を依頼する。

5. 準備するもの

当方が準備するもの	お客様に準備いただくもの
■ 本基準書 ■ 引き渡し資料の雛形 ■ 完了チェックリスト ■ パンフレット	■ 全工程を通して参加する担当者（1名以上） ■ 作業用パソコン（管理者権限あり） ■ お客様名義の Google アカウント（Play Console に必要） ■ お支払い用のクレジットカード ■ 法人の登記情報（住所・電話番号） ■ D-U-N-S® Number

6. 作業手順

各工程の「急所」は、守らないと後戻りが発生する箇所である。作業そのものより、急所を守ることを優先する。

標準時間は暫定値である。初回実施後に実測し、本基準書を改訂すること。

工程 1 事前ヒアリング

標準時間の目安：約 60 分（リモート可）

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	作りたいものを聞き取り、最初の 1 本を決める	「あったら便利」ではなく、いま毎日やっている作業を選ぶ	題材が抽象的だと、講習が練習で終わり、実務で使われない
2	パソコンの機種・OS・空き容量・管理者権限を確認する	空き容量は 20GB 以上を確認する	Android Studio と関連ファイルで十数 GB を消費する
3	社内ネットワークのプロキシ有無を確認する	ある場合は設定値を控えてもらう	当日判明すると全ダウンロードが失敗し、作業が止まる
4	D-U-N-S® Number の取得状況を確認する	未着手なら、この場で工程 2 の着手を依頼する	発行待ちで工程 7 に進めず、日程を再調整することになる
5	全工程を通して参加する担当者を確認する	氏名を挙げてもらう。「そのときいる者が出ます」では着手しない	担当が入れ替わると覚えた内容がどこにも残らず、引き渡し後に続かない

工程 2 D-U-N-S® Number の取得（お客様作業）

標準時間の目安：当方の作業は約 30 分（案内のみ）

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	東京商工リサーチの「D-U-N-S® Number 検索サービス」で認証コードを取得いただく	申込はお客様ご自身が行う	企業情報の登録であり、代理申請は責任の所在が不明確になる
2	取得までの日数と費用（1 万円～3 万円）をあらかじめ伝える	費用がお客様負担であることを書面で伝える	後から費用が出ると、金額の大小にかかわらず信頼を失う
3	取得完了の連絡を受けたら、工程 3 以降の日程を確定する	取得完了を確認してから訪問日を決める	未取得のまま訪問すると工程 7 が実施できない

工程 3 開発環境の導入

標準時間の目安：約 120 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	Node.js（LTS 版）を導入する	LTS 版を選ぶ。最新版を選ばない	最新版は周辺ツールが追随しておらず、原因不明の失敗を招く
2	Git を導入する	導入後、バージョンが表示されることをその場で確認する	導入したつもりで PATH が通っていない事例が多い
3	Android Studio を導入する	JDK は別途入れず、Android Studio 同梱のものを使う	JDK を別に入れると参照先が競合し、ビルドが通らなくなる
4	Claude Code を導入する	お客様のパソコンに、お客様の権限で導入する	実施者の環境で動いても、お客様の環境で動かなければ意味がない
5	各ツールのバージョンを記録する	記録は引き渡し資料に残す	後日の不具合時に、何が変わったのかを切り分けられる

工程 4 GitHub の初期設定

標準時間の目安：約 60 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	お客様名義でアカウントを作成する	アカウントはお客様が作成し、パスワードは実施者に見せない	認証情報を実施者が知った時点で、責任の所在が曖昧になる
2	最初のリポジトリを作成する（非公開）	公開・非公開の選択を必ずお客様に確認する	既定のまま公開にすると、社内情報が外部に出る
3	端末からの認証を設定する	ブラウザ経由の認証とし、お客様ご自身が入力する	トークンを口頭・メール・チャットで受け渡すと漏えい経路になる
4	変更を保存して履歴に残す操作を、お客様の手で 1 回実施する	実施者が代わりに操作しない。見守る	自分の手で 1 回通していないと、翌日には再現できない

工程 5 Claude の導入と使い方

標準時間の目安：約 90 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	お客様名義でプランを契約いただく	支払いはお客様のカードで行う	支払いとデータの帰属をお客様側に置くための原則
2	プロジェクトの約束事を書いたファイル（CLAUDE.md）を用意する	何を作るか・何をしてはいけないかを最初を書く	約束事がないと、依頼のたびに方針がぶれる
3	工程 1 で決めた題材で、実際に指示を出して動かしてみる	実施者が指示文を書かない。お客様に書いてもらう	指示の出し方こそが習得すべき技能であり、代筆は習得を妨げる
4	うまくいかなかったときの直し方を体験してもらう	成功例だけでなく、失敗からの復旧を必ず 1 回通す	実務では失敗のほうが多く、復旧できないと続かない

工程 6 最初のビルドとアップロード鍵

標準時間の目安：約 90 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	targetSdk が最新の要件を満たしているか確認する	毎年 8 月ごろに必要な値が 1 つ上がる。着手時点の最新要件を確認する	古いままだとアップロード自体が弾かれ、先へ進めない
2	リリース用のビルドが通ることを確認する	動作確認はリリース用ビルドで行う。開発用で代替しない	開発用で動いてもリリース用で壊れることがある
3	アプリのアップロード鍵を作成する	鍵とパスワードはお客様が作成・保管する	Play アプリ署名により再設定の申請はできるが、再発行が済むまでアップデートを出せなくなる
4	アップロード鍵を 2 か所以上にバックアップする	バックアップ完了を目視で確認してから次へ進む	「あとでやる」は実行されない。この場で確認する
5	アップロード鍵と設定ファイルを履歴管理の対象外にする	.gitignore への記載を実際のファイルで確認する	一度履歴に入ると、削除しても記録から消せない

工程 7 Google Play への法人登録

標準時間の目安：操作は約 60 分（ほかに審査・承認の待ちが数日）

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	開発者名と連絡先メールを先に決める	個人名ではなく法人名・法人のメールにする	公開後の変更は再確認が発生し、余計な日数がかかる
2	D-U-N-S® Number を使って組織アカウントを登録する	登記情報と一字一句そろえる	表記が違っていると確認に落ち、やり直しになる
3	登録料（初回のみ 25 USD）をお支払いいただく	支払いはお客様のカードで行う	アカウントの帰属をお客様側に置くための原則
4	本人確認書類を提出する	承認まで数日かかることを、日程を決める前に伝える	即日で公開できると誤解されると、後の予定がすべて狂う

工程 8 公開手順の実演

標準時間の目安：約 150 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	プライバシーポリシーを用意し、公開 URL を確保する	登録作業より前に用意する	URL がないと申告が完了せず、そこで作業が止まる
2	「アプリのコンテンツ」の申告を 10 件すべて消化する	「要注意」タブが 0 件になるまで行う。直 URL は末尾に /summary を付ける	1 件でも残っていると審査に送信できない。/summary を付けない直 URL はホームへ転送される
3	ストアの掲載情報を登録する	アイコン 512／フィーチャーグラフィック 1024×500／スマホのスクリーンショット 2 枚以上／7 インチ・10 インチのタブレット用スクリーンショット	製品版は画像が揃わないと提出できない。素材不足はその場では解決できず、後日やり直しになる
4	入力した内容が保存されたことを確認する	「保存」だけで終わらせず確認ダイアログを確定し、ページを再読み込みして値が残っているかを見る	確定しないと入力が黙って消える。連絡先メールが消えた事例が実際にある
5	内部テストに上げ、実機で動作を確認する	製品版に直接上げない	リリース用ビルド特有の不具合を、公開前につけられる

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
6	内部テストのテスターを選択して保存する	アップロードだけで終わらせない	テスターが未選択だとトラックが非アクティブのままになり、審査送信がロックされ続ける
7	製品版に昇格し、配信する国／地域を追加する	製品版リリースを保存する前に追加する	未選択のままだと「国または地域が選択されていません」で審査に送信できない
8	製品版リリースを保存し、審査に提出する	バージョン番号は毎回 1 つ増やす	一度アップロードに成功した番号は、削除しても再利用できない
9	送信前の自動チェックの完了を待つ	13～14 分かかる。終わると自動で審査へ進むので、途中で操作を重ねない	待たずに「送信できていない」と判断して操作すると、いまどの状態なのか分からなくなる
10	「審査中の変更」の中身を確認する	件数だけでなく、製品版リリースが含まれているかを見る	申告だけが送信され、製品版が未公開のまま残る事故が実際に起きている。初回審査は通常 1～7 日

工程 8-2 の申告 10 件：プライバシーポリシー URL／広告／ログインの詳細／コンテンツのレーティング（IARC）／ターゲットユーザー／データセーフティ／広告 ID／行政アプリ／金融取引機能／健康アプリ。項目は随時追加されるため、着手時に実画面で件数を数えること。

工程 9 引き渡し

標準時間の目安：約 30 分

	作業手順	急所（必ず守ること）	急所の理由
1	完了チェックリストをお客様と一緒に確認する	実施者が一人で埋めない。画面を見ながら一緒に確認する	確認漏れが後日の問い合わせになる
2	引き渡し資料一式をお渡しする	バージョン記録と手順書を必ず含める	半年後の不具合時に、何が変わったのか追えなくなる
3	実施者の端末からお客様のアカウント情報を消去する	消去した画面をお客様に見せる	「消したはず」では、お客様の不安が残る

7. 完了チェックリスト

すべてに「はい」がつくまで完了としない。1 つでも「いいえ」がある場合は、該当工程に戻る。

	確認項目	確認
1	全工程を同じ担当者が通して受講した	☐ はい ☐ いいえ
2	お客様が自分の手で、変更を保存し履歴に残せた	☐ はい ☐ いいえ
3	お客様が自分の手で、リリース用のビルドを作れた	☐ はい ☐ いいえ
4	お客様が自分の手で、Google Play への提出まで到達した	☐ はい ☐ いいえ
5	アップロード鍵とパスワードが、お客様の管理下で2か所以上にある	☐ はい ☐ いいえ
6	アップロード鍵・設定ファイルが履歴管理の対象外になっている	☐ はい ☐ いいえ
7	GitHub・Claude・Google Play のすべてがお客様名義である	☐ はい ☐ いいえ
8	実施者の端末にお客様の認証情報が残っていない	☐ はい ☐ いいえ
9	引き渡し資料一式をお渡しした	☐ はい ☐ いいえ

8. 情報セキュリティ上の遵守事項（違反は事故として扱う）

本サービスでは、お客様の認証情報に触れる場面が多い。次の各項は例外なく守ること。

1. パスワード・アクセストークン・API キー・アップロード鍵のパスワードを、実施者が預からない。必ずお客様ご自身が画面に入力する。
2. 画面共有中にこれらが表示された場合、記録しない・撮影しない・書き写さない。
3. メール・チャット・資料・議事録に認証情報を書かない。他者から送られてきた場合も同様に扱う。
4. 誤って認証情報を受け取ってしまった場合は、直ちにお客様に無効化（再発行）を依頼する。
「見なかったことにする」は不可。
5. 作業用に一時的にログインした場合、その日のうちにログアウトし、消去を確認する。
6. アップロード鍵の控えを当方が保持しない。バックアップ先はお客様が決める。

9. 異常時の処置

症状	想定される原因	処置
ダウンロードがすべて失敗する	社内プロキシ	情報システム担当者にプロキシ設定値を確認し、各ツールに設定する

症状	想定される原因	処置
ビルドが通らない	JDK の参照先の競合	Android Studio 同梱のものを参照するよう設定を戻す
「このバージョン番号は使用済み」と出る	一度アップロードに成功した番号は再利用できない	争わず、番号を 1 つ増やして作り直す
審査への送信ボタンが押せない	未完了の必須項目がある	ダッシュボードの未完了項目を潰す。定番はテスターの未選択と連絡先メールの未保存
審査は通ったのに公開されない	製品版リリースがエラーで無効のまま送信された	製品版のリリース画面でエラーを直読し、修正のうえ再提出する
入力した内容が保存されない	確認ダイアログを確定していない	確定まで行い、画面を再読み込みして値が残っているか確認する
テスト版は通るのに製品版だけ弾かれる	ネイティブライブラリが 16KB ページサイズに未対応（ネイティブを使うアプリのみ）	対象のライブラリを特定し、対応済みの版に更新して作り直す
一覧に「審査に送信されていない」と出続ける	一覧表示のキャッシュのずれ。公開後も残ることがある	公開の概要と、製品版のリリースタブで実際の状態を見る。あわてて再送信しない

10. 記録と保管

記録	保管
完了チェックリスト（お客様署名入り）	当方で保管する
導入したツールのバージョン記録	お客様・当方の双方で保管する
引き渡し資料一式	お客様で保管する
アップロード鍵およびそのパスワード	お客様のみで保管する（当方は控えを持たない）

11. その他（運用上の取り決め）

本サービスの運用について、次のとおり取り決める。変更が生じた場合は本基準書を改訂すること。

	項目	取り決め
1	引き渡し後のサポート	総計で 12 時間程度を目安とする。
2	実施形態	訪問とリモートを併用する。訪問は 1～2 回を標準とする。
3	2 本目以降の支援	継続して支援する場合は、別途ご相談のうえ決定する。
4	対応するアプリの種類	Android アプリと Windows アプリに限る。

12. 改訂履歴

版	日付	改訂内容	作成
第 1 版	2026 年 9 月 3 日	制定	—
第 2 版	2026 年 9 月 3 日	実際の公開実績と突き合わせて工程 6～8 と 9 章を補強（targetSdk 要件・申告 10 件・掲載素材・テスター選択・国／地域の追加・送信前チェック・キャッシュのずれ）。アップロード鍵は再設定を申請できる点と、申告画面への到達方法を訂正。	—

（付記）標準時間および工程の区切りは、当法人がこれまでに行った内製の経験に基づく暫定値である。実施のたびに実測し、差異が生じた場合は速やかに本基準書を改訂すること。基準書を実態に合わせ続けることが、本サービスの品質そのものである。